量計測関連企業の2022年3月期第1 決算が出揃う 各企業の第1四半期決算短信から

以上の結果、当第1四半 同期比17.6%増)、営業 期連結累計期間の業績に 復に伴い油圧機器も増加 常利益は127億2百万 利益は124億18百万円 942億98百万円(前年 感染症の影響を受けて厳 は、新型コロナウイルス しました。航空機器事業 つきましては、売上高は 会社株主に帰属する四半 く推移しました。 は売上の増加などによ 万円(前年同期比28・6 %増)となり、営業利益 売上高は、613億5百 た。この結果、

とに加え、設備投資の回 造装置向けターボ分子ポ 復基調となりました。 産 延期されていた設備投 機器事業は、コロナ禍 試薬キットや全自動PC

開により、液体クロマト 製造業分野では、設備投 グラフなどが増加しまし んだことや大学の研究再 各国政府の予算執行が進 た。官庁・大学分野では、 で回復基調となりまし 資が徐々に増加したこと R検査装置が圏内を中心 に業績に貢献しました。 り、営業利益は売上の増 同期比10・5%増)とな 加などにより、 144億8百万円(前年 TANITA デジタルスケール

移しました。また、産業 の増加などにより、ター センター向け半導体需要 ボ分子ポンプは好調に推 5 G対応機器やデータ

同けに液体クロマトグラ 部抜粋したものを紹介する 新型コロナウイルス検出 や質量分析システムが好 薬開受託分析向けに、主 の動きが見られました。 の増加により、需要回復 や、民間企業の設備投資 達成しました。 調に推移しました。また、 力の液体クロマトグラフ ヘルスケア分野では、医 つぎのとおりです。 各国政府の経済対策 各セグメントの状況は

万円 (同365・8%増) ■産業機器事業 8億87百

当事業の

エー・アンド・ディ

益は8億47百万円 期比17・8%増)、営業利 15億41百万円(前年同 期間における売上高は1 当第1四半期連結累計

愛媛県計量振興協会が誕生、NITE講座の受講生募集

計量計関連企業の2022年3月期第1四半期 特集とうきょうの計量2280 指定検定機関「指定の申請の考え方」第6版の 学校歴は人の仕事能力の表現形式ではない(7) ④⑤面 社説「近海の水温は高いが海洋気温は違う」、島津と (次ページへつづく) ない結果となった企業がみられた。各企業の詳細は第1四半期決算短信から 今期は、経験をふまえて大きく伸ばしている企業や、依然として抜け出せて 過去に経験のないコロナ禍を過ごしたため、業績は厳しい結果となったが。 計量計測関連企業の2022年3月期第1四半期決算が出揃った。前期は

■医用機器事業

どが増加しました。この 禍前の水準まで戻り、前 結果、当事業の売上高は り、X線TVシステムな 資が進んだことなどによ の診断治療件数はコロナ る回診用X線撮影装置の 年に凍結となった設備投 需要は前年比で減少しま 伴い、新型コロナウイル した。一方、医療機関で 新規感染者数の減少に

事業の売上高は41億41百 りました。この結果、当 大幅な減収となりまし 症の影響を受け減収とな 期は1億30百万円の営業 円となりました(前年同 は防衛分野の売上の減少 %減)となり、営業損失 新型コロナウイルス感染

同期は2億円の営業利 万円となりました(前年 8%増)、営業損失は33百 3百万円(前年同期比60・ ■その他の事業 当事業の売上高は14億

チェッカを始め計量機器 ウンの影響を前第1四半 ンドにおいてはロックダ

案件があったことにより 防衛分野は前年に大口

量機器の売上が大きく伸 ステム(DSPシステム) 御・シミュレーションシ 復基調となった計測・制 属検出器・ウェイト アジア・オセアニアにお きく増加しております。 より売上、利益ともに大 での生産も進んだことに 計年度下期より受注が回 いては、韓国において計

堅調な売上となった一 方、米国向けコンテナ不 足によりエアー便での輸

となりました。 百万円(同78・6%増) 増加などにより、13億73 年同期比25・0%増)と は129億60百万円(前 の結果、当事業の売上高 売上も増加しました。こ 要が回復し、 なり、営業利益は売上の ■航空機器事業 油圧機器の

①計測·計量機器事業 おいては、主力の計量機 機器の需要の回復を受 加しております。米州に 日本においては、計量 売上、利益ともに増

一器・ウェイトチェッカの 器の需要回復、金属検出 拡販活動および前連結会 ②医療•健康機器事業 8%増)となりました。 増)、営業利益は4億21百 万円(前年同期比116 (前年同期比16・0

大口案件の継続に加え、 要が回復したことにより 退役軍人省向け製品の需 おいては、米国における 上、利益ともに大きく増 製品が大きく伸長し、売 量器を中心に医科向けの たことにより、医療用計 設等の設備投資が回復し に推移し、病院や介護施 用血圧計等の需要は堅調 加しております。米州に 日本においては、家庭 は次のとおりでありま 84・0%増) となりま 70百万円(前年同期比5 同期比292・3%増) する四半期純利益は5億 セグメントごとの業績

経常利益は9億56百万円 (前年同期比244・9

東京都江東区亀戸7丁目62-16 〒 136-0071 TEL 03-5628-7070 FAX 03-5628-7071

定量計量専用機

移しました。それ以外の り、売上、利益ともに増 要が回復基調となってお ておらず売上は堅調に推 期連結累計期間ほど受け 加いたしました。この結 製品や地域においても需

一号を合併号とし、 29日付で発行します。 $\begin{array}{c} 3 \\ 3 \\ 4 \\ 7 \\ \cdot \\ 3 \\ 3 \\ 4 \\ 8 \\ \end{array}$

ンの計量装置総合システムメ

粉粒体充填装置

トラックスケール計量・データ管理システム

トレーサビリティ管理システム 各種穀物用計量機

計量システムの専門メーカー

多彩なニーズに 120年の技術開発とノウハウでご提案します。

伝統の技術・先進の技術・信頼の技術 近江度量衡株式会社

本社 〒525-0054 滋賀県草津市東矢倉 3-11-70 TEL.077-562-7111 FAX.077-562-7116 【国内拠点】本社草津工場・東京・札幌・帯広・仙台・新潟・熊本・久留米 【海外拠点】韓国 (仁川)・中国 (上海)・タイ (バンコク) URL:http://www.omiscale.co.jp

の売上高は66億15百万円 果、計測・計量機器事業



高いスキルを持ったスタッフが丁寧にJCSS校正作業を

お応えします。

豊富な校正機器、充実した校正設備で様々な

長野計器とナガノ計装は、計量法に基づく圧力の校正事業者です。

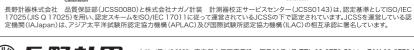


lac MRA IA Japan

おこなっています。

本社/〒143-0022 東京都大田区東馬込一丁目30番4号 TEL 03-3776-5311 FAX 03-3776-5320 http://www.naganokeiki.co.jp/ お問合せはフリーコール/0120-10-8790

lac MRA IAJapan



本社/東京営業所 〒143-0022 東京都大田町 TEL 03-5718-3281 FAX 03-5718-0238

JCSS 0080

本社/東京営業所 〒143-0022 東京都大田区東馬込一丁目30番4号(長野計器ビル) http://www.nagano-keiso.co.ip

Accredited

